



新規高分子多孔体（ポリマーモノリス）カラムリアクターを開発

表面に金属ナノ粒子を担持したポリマーモノリスを触媒担体として利用することで、フロー系有機合成により、医薬品中間体や電子デバイス用機能有機化合物等を短時間で効率的に生成できる。連続合成、多品種合成に適している。

本業の動向について

相分離を用いて生成できる新規な有機高分子多孔体（ポリマーモノリス）を研究し、従来技術よりも高速・高性能分離が可能な高速液体クロマトグラフィー用分離媒体（HPLC 用カラム）等の応用開発や製造を行なっている。その他用途に関する問い合わせも多く、それぞれに対応した材料設計を行なっている。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

所在地

大阪府大阪市城東区森之宮 1 丁目 6 番 50 号

連携内容

当社の持つ多孔体形成技術と、大阪市立工業研究所の持つ金属ナノ粒子形成技術を融合することで、金属ナノ粒子触媒が担持されたポリマーモノリスを開発し、送液によるフロー系有機合成リアクターカラムに適用する。

連携した動機やきっかけ

当技術の発明者から大阪市立工業研究所の研究者を紹介してもらい連携開発に至った。

連携の効果

大阪市立工業研究所の研究者のアイデアでフロー系リアクターへの適用を検討してみたら、実用性の高いことが分かり、共同研究を始めた。

連携して最も効果のあったこと

JSTの助成事業に採択されてリアクターカラムの開発がさらに進展し、特許共同出願にまで至った。また、リアクター以外の用途開発についても連携する可能性が出てきた。

連携して最も困難だったこと

該当なし。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては連携することにより研究指導が受けられ、また試験装置等を利用することができる。また、公設研究機関を通じて、他社や大学との交流ができ、共同研究に発展する可能性がある。デメリットは該当なし。

連携に際しての注意、アドバイスなど

共同研究により得られた知見をもとに特許出願する場合、持分が半分でも出願費用や審査請求料、維持費等を民間企業が全て負担しなければならない。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

研究開発資金の優遇制度。

会社概要

設 立：2004年(平成16年)3月

資 本 金：1,500万円

従業員数：3名

U R L：<http://www.emaus-kyoto.com>